

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
ET46J004		臨床心理面接特論 (Special Seminar (II) on Clinical Interview)					臨床心理学									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 渡辺 亘 E-mail wwata@oita-u.ac.jp 内線 7585										
授業の概要	臨床心理士の主要な活動の一つである面接による心理臨床(心理療法)に関して、「臨床心理面接特論1」で習得した基本的内容を、より実践的な水準に高めていく。特に、発達段階、人格水準、援助の場といったことに応じた援助のあり方について、力動的心理療法の視点を中心にまなびを深める。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	心理療法(特に力動的心理療法)の実践に際して必要となる理論・技法・姿勢を理解すること。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	対象者の問題に応じた心理療法のあり方について理解すること。															
目標3	支援の場に応じた心理療法のあり方について理解すること。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	発達段階・人格水準の視点															
2	児童期の心理療法															
3	思春期・青年期の心理療法															
4	成人期・中年期・老年期の心理療法															
5	神経症圏の心理療法															
6	人格障害圏の心理療法															
7	精神病圏の心理療法															
8	医療領域での心理療法															
9	教育領域での心理療法															
10	福祉領域での心理療法															
11	司法領域での心理療法															
12	保護者・家族への心理療法															
13	臨床素材に基づく討議1															
14	臨床素材に基づく討議2															
15	まとめ															
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義に基づき、心理専門職としての職能及び自らの課題に関する省察・言語化・発見を促すことを目的として毎回のレポートを課し、それに対する指導を行う。また、心理療法の事例にふれることで、より実践的な活用のあり方について理解を深める。	工夫 その他	映像等の視覚的な資料を用いて具体的な学びをすすめる。												
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	関連する文献・資料を読み、各回の内容について予習する。約1時間。														
	事後 学修	各回の内容について、レポートを課す。約1時間。														
教科書	「精神分析的心理療法の手引き」 鐘幹八郎(監) 誠信書房															
参考書	「臨床心理学大系」 金子書房 他															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	授業や討議への積極的な参加	40%														
	レポート	60%														
注意事項	各回にレポートを課す															
備考	本科目は臨床心理士受験資格取得に関する必修科目である。臨床心理士受験資格取得のための必修科目については、別に配付する資料に基づいて履修すること。															
リンク	URL															